

国立中央大学（台湾）

国際文化交流学部 西川愛澄

留学期間：2024年2月15日～2024年8月15日

国立中央大学での6ヶ月間の生活を終えて、台湾での生活と学びについてをまとめます。台湾での生活は決して楽しい事だけではありませんでしたが、私の視野を大きく広げてくれたと感じています。

国立中央大学は台北から西に約50km離れた桃園市中壢区に位置します。桃園市には桃園国際空港があり、空港から台北までのMRTや台湾における新幹線のような高鉄が通っているため、国内外ともに交通のアクセスが良い都市です。

台湾に到着し、まず直面した問題はルームメイトとのコミュニケーションでした。私は4人部屋の寮で生活していたのですが、ルームメイトは3人とも韓国人でした。最初の一週間は共用スペースの使い方や共有で使うものの購入などルールを決めなければいけない場面が多々ありましたが、中国語で説明してもらっても理解できず、何が分からないのかも説明ができないことへのもどかしさと今後の生活への不安を感じました。

しかし3月に入り授業が始まるとそのもどかしさもだんだん解消されていきました。

私は一週間のうち中国語学部の正規授業が2つ、加えて毎日9時から2時間言語センター



ーでの授業を受講していました。

正規授業の内読み書きが中心のものでは、本文の内容も難しく先生の説明も早いため、予習復習をして内容理解をしてから授業に参加していました。言語センター

での授業が始まると、正規授業での理解度も上がり、授業参加に臆することがなくなりました。言語センターでは毎日新たな単語や文法を学び、会話に織り交ぜながら練習するため、表現力が日を追うごとに増え大きな成長を感じることができました。クラスメイトや他の留学生とのおしゃべりも次第に内容が広がり、お互いの国について教えあったりなど、日本では作れないコミュニティの広がりだけでなく、自分1人の人生では得られない知識を得られたことも大きな糧になっていると感じています。

成長を特に大きく実感した出来事としてパイナップルケーキ作り体験があります。帰国

直前に参加したのですが、半年前の自分では絶対に作り方の説明も聞き取れなかっただ



ろうし、分からないことを聞くこ
ともできていなかったと思いま
す。生活の中でできることが増え
ていくことを実感する喜びは何
事にも変え難く、この留学生活は
今後のチャレンジへの勇気も得
られた経験になりました。